

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分
 【発行日】令和 1 年 12 月 5 日 (2019.12.5)

【公開番号】特開 2019-180618 (P2019-180618A)
 【公開日】令和 1 年 10 月 24 日 (2019.10.24)
 【年通号数】公開・登録公報 2019-043
 【出願番号】特願 2018-72825 (P2018-72825)
 【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 0 4 D

【手続補正書】

【提出日】令和 1 年 10 月 9 日 (2019.10.9)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

遊技を実行可能な遊技機であって、
 振動可能な振動手段と、
 前記振動手段の振動制御が可能な振動制御手段と、
動作可能に設けられた装飾体と、
遊技者が操作可能な操作手段と、
 を備え、
前記装飾体は、前記操作手段への操作にもとづいて態様が切り替わるとともに動作を伴
わない第 1 機能と、動作を伴う第 2 機能と、を有し、
 前記装飾体の動作制御が可能な装飾体制御手段をさらに備え、
 前記装飾体における前記第 1 機能を遊技者に認識させた後、前記振動手段が振動する場
 合に前記装飾体制御手段が前記装飾体を動作させることにより前記第 2 機能を遊技者に認
 識させることが可能である、
 ことを特徴とする遊技機。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 1】

(手段 A) 本発明による遊技機は、遊技を実行可能な遊技機であって、振動可能な振動
手段と、振動手段の振動制御が可能な振動制御手段と、動作可能に設けられた装飾体と、
遊技者が操作可能な操作手段と、を備え、装飾体は、操作手段への操作にもとづいて態様
が切り替わるとともに動作を伴わない第 1 機能と、動作を伴う第 2 機能と、を有し、装飾
体の動作制御が可能な装飾体制御手段をさらに備え、装飾体における第 1 機能を遊技者に
認識させた後、振動手段が振動する場合に装飾体制御手段が装飾体を動作させることによ
り第 2 機能を遊技者に認識させることが可能である、
ことを特徴とする。

(手段 1) また、他の遊技機として、遊技を実行可能な遊技機であって、振動可能な振

動手段（例えば、バイブレータモータ１５３ＩＷ１３）と、振動手段の振動制御が可能な振動制御手段（例えば、演出制御用ＣＰＵ１２０における、ステップ１５３ＩＷＳ０２０で振動演出を設定し、ステップＳ１７２を実行する部分）と、装飾体（例えば、第２可動体１５３ＩＷ０２）とを備え、装飾体は、動作可能に設けられ、動作を伴わない第１機能（例えば、画像表示装置５の縁取りとしての機能）と、動作を伴う第２機能（例えば、バイブレータモータ１５３ＩＷ１１３により発生する振動を強調する機能）とを有し、装飾体の動作制御が可能な装飾体制御手段（例えば、演出制御用ＣＰＵ１２０における、強調演出パターンとしてＫｐ２，Ｋｐ３のいずれかを決定し、ステップ１５３ＩＷＳ０２０，Ｓ１７２を実行する部分）をさらに備え、装飾体における第１機能を遊技者に認識させた後、振動手段が振動する場合に装飾体制御手段が装飾体を動作させることにより第２機能を遊技者に認識させることが可能である（例えば、演出制御用ＣＰＵ１２０は、画像表示装置５の縁取りとしての機能を遊技者に認識させた後、振動演出を行う際にＫｐ２，Ｋｐ３の強調演出を行うことにより、振動を強調する機能を遊技者に認識させる）

ことを特徴としてもよい。そのような構成によれば、演出効果を高めることができる。